



東海地域 有機農業フォーラム2024



～オーガニックビレッジで広がる有機のまちづくり～



愛知県 東郷町
企画政策部 産業振興課 竹内 直樹



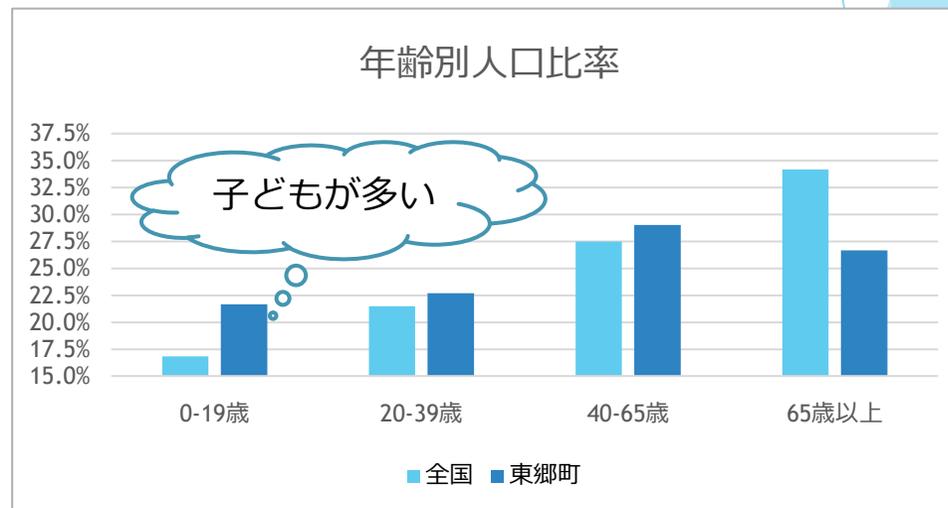
東郷町の
もっこく

東郷町の概要【人口など】



(令和7年1月1日現在)

- 人口 43,928人
- 世帯数 18,784世帯
- 面積 18.03km²



名古屋市と豊田市に挟まれた**大都市近郊**のまち

東郷町の概要【農業】

- 農地
全体耕地面積： 336ha
田耕地面積： 238ha
畑耕地面積： 98ha
※2023年耕地面積調査
- 農家数 379戸 [自給：190戸、販売：189戸]
※2020年農林業センサス
- 主要農作物
お米（あいちのかおり）
トマト、イチゴ、イチジク



東郷町の概要【有機農業】

➤農家数

・ 12戸 (R5末) ⇒ 20戸 (R6末) ⇒ **23戸 (R7.1)**

➤有機農業の取組面積

・ 6.4ha (R5末) ⇒ 9.2ha (R6末) ⇒ **13.3ha (R7.1)**

※有機JAS認証を取得していない農地を含む

➤有機農業の取組割合

・ 1.8% (R5末) ⇒ 2.7% (R6末) ⇒ **3.9% (R7.1)**

➤主要作物

・ お米、小松菜、人参、大根、かぼちゃ等

➤販売方法等

- ・ 直接販売（産消提携）、集出荷業者へ販売（JAS農家）、JA出荷
- ・ 町内直売所【個人】3か所（有人2、無人1）



事業に取り組んだ経緯①

優良農地（自然環境）の保全

農業の問題・・・担い手不足、遊休農地の増加

↓ なぜ？

- ・農業で他産業並みの所得を得るのが難しい

- ・子どもには継がせられない

↓ どうすれば・・・

「儲かる農業」へ



事業に取り組んだ経緯②

食と農 ⇒ 食べることは生きること



『健康志向の**高まり**』

無関心でいられても、
無関係ではられない



『気候**変動**・自然**災害**』

事業に取り組んだ経緯③

- ・安全で良質な農産物への消費者ニーズ
- ・生物多様性の保全、地球温暖化防止などの環境問題

↓ 意識の高まり

人と自然が共生できる持続可能な『**有機農業**』を選択

大都市近郊という立地条件の強み

有機農業で、**農産物**と**まち自体**を**ブランド化**

↓ 広く認知

担い手の確保 ⇒ **優良農地（自然環境）の保全**

事業に取り組んだ経緯④

- 平成30年度**日本一おいしい給食** 給食改革
 - 単に**味がおいしい**だけでなく、子ども達には**より安全で安心な食材**で提供したい！
 - 令和元年度から給食に**有機農産物**導入
- ⇒ **オーガニック給食** スタート！（行政主導）
- 令和3年5月 **みどりの食料システム戦略**（農水省）
- ↓
- 令和5年3月 **オーガニックビレッジ宣言**

東 郷 町



東郷町は、名古屋市のすぐ東隣に位置し、トヨタ自動車の拠点豊田市とも近接する住宅のまちです。

緑の豊かな住宅地として、また、トヨタ自動車関連企業の生産拠点として、今もお発展し続けています。

近年、東郷町の魅力の一つであり、豪雨対策など災害時の要となる田畑や里山といった美しい緑は、都市化とともに減少しています。

特に農地は、不動産価値の高さに加え、面積当たりの農業所得の課題も営農を継続することを困難にしているものと推測しています。

こうした状況の中、東郷町では、未来の世代に美しい緑の環境を引継ぎ、人と自然が共生できるまちとして、

「子ども達を東郷町で育てたい」と思っていただけまちづくりを推進します。



都市近郊型農業を高価格・高付加価値の有機農産物の生産拠点とし、美しい緑の中でたくさんの生き物と共生し、「子ども達に笑顔を提供するまち東郷町」に、歩みを進めていく決意をしました。

農家の皆さんと地域の皆さんが有機的につながり、子ども達を笑顔にしていこうまちづくり、有機的に人と人がつながるまちづくり、その達成のために東郷町は、「オーガニックビレッジ」を宣言します。



令和5年3月29日

東郷町長 丹候 恭治

有機農業実施計画について

「**オーガニック給食**」をフラッグシップ

(※R7.1時点)

① 給食用米を全量**有機米**に

有機稲作取組面積：1ha（令和3年度）⇒**6ha**（目標21ha）

② **有機野菜**の導入拡大

有機畑作取組面積：5.4ha（令和3年度）⇒**7.3ha**（目標7.6ha）

③ 新規就農者、**有機転換者**支援

有機農業者数：12人（令和3年度）⇒**23人**（目標35人）

東郷町有機農業実施計画

1 市町村
愛知県愛知郡東郷町
2 計画対象期間
令和5年度から令和9年度までの5年間
3 対象市町村における有機農家の現状と5年後に目指す目標

(1) 本町の現状

本町は、名古屋市に隣接し、豊田市に近接する約18.03㎢のまちです。この立地条件から町の縁辺部で宅地開発が進み、ベッドタウンとして人口増加が続いてきました。近年では、町の中心部で土地区画整理事業による開発が進み、2020年には大規模商業施設が立地したことにより町外からの交流人口が増加しており、今後は定住人口の増加が見込まれます。

さらに、東名高速道路東名三好インターチェンジに隣接する町の東部地域では、製造業の本社工場や製造業や物流施設の立地など町の都市計画マスタープランに沿った土地利用が進んでいます。今後も、都市的土地利用と農業的土地利用の調整を計画的に行うことで、優良農地の保全に努めています。

(2) 農業の現状

ア 生産関連

本町では、昭和40年代から農業生産基盤の整備である土地改良事業が順次進められ、昭和50年代には概ね完了しており、以前から稲作農家が大半を占めていたこと、また、圃場整備も水田を目的としたものが多いことから、農業生産は稲作が多くを占め、現在の農地面積は343haで、田が243ha（71%）、樹園地などを含む畑が100ha（29%）となっています。

一方、農家数は、2000年の530戸から2020年の379戸と年々減少しており、この20年間で約3割減少し、担い手の確保が必要となっています。

特に販売農家数は、2000年の377戸から2020年の189戸と、この20年間で半減し、2020年には、自給的農家数（190戸）が販売農家数を上回るなど、営農形態が販売から自家消費に移行しています。



年	販売農家数	自給的農家数	合計
2000	377	153	530
2005	316	212	528
2010	284	228	512
2015	220	203	423
2020	189	190	379

資料：農林業センサス2000～2020（総農家数）

東郷町での取組紹介①（生産関連）



- 専門家による有機農法栽培技術指導
- ・ 毎月講習会（座学・技術指導）を開催
- 【稲作】 R4.10～
- 【野菜作】 R6.10～

東郷町での取組紹介②（生産関連）



- 有機稲作用農業機械器具の貸出し
 - ・ 塩水選用具、温湯処理機、全自動播種機

東郷町での取組紹介③（生産関連）



➤有機稲作用農業機械器具の貸出し

- ・除草機具（はったんどり、歩行型・乗用型除草機）

東郷町での取組紹介④（生産関連）



- **町単独**の協力金、補助金制度
 - 給食用有機米プロジェクト協力金（4千円/a）※5年間
 - 有機転換推進事業補助金（2千円/a）※転換年のみ

東郷町での取組紹介⑤（生産関連）



- 援農ボランティア制度（慣行も含む）
 - ・ ボランティア希望者と受入農家をマッチング
【R5：15名、R6：19名】

東郷町での取組紹介⑥（流通関連）



➤ 飲食店とのコラボ商品の開発

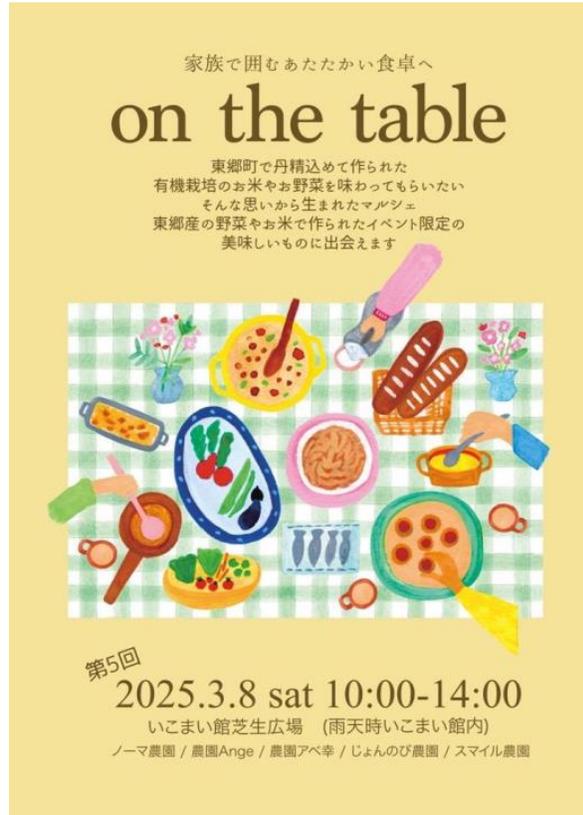
- 町内にオープンしたパン屋さんの惣菜パン（オーガニックビレッジマルシェで販売）



➤ 規格外農産物を活用して給食で提供

- 規格外のサツマイモを使用したコロケ
- ※その他：クズ米を使った米粉パンをマルシェで販売

東郷町での取組紹介⑦（消費関連）



【出店条件】

町内有機農産物を使った商品を1品以上販売すること

➤オーガニックビレッジマルシェ（名称：on the table）開催

- ・有機農家による「こだわりの野菜」の対面販売
- ・野菜販売だけでなく、有機農産物を使った惣菜パン、おやつ、デザートも販売
- ・若い世代をターゲットに親子で楽しめるワークショップや音楽会も同時開催

東郷町での取組紹介⑧ (消費関連)



➤ 離乳食教室等参加者と有機農家との交流

- 離乳食に有機ニンジンペーストを試食
- 町内にオープンしたパン屋さんの惣菜パン
(オーガニックビレッジマルシェで販売)



➤ 子どもが体験でして楽しめるイベントを開催

- 親子有機野菜づくり体験
- 有機野菜をさわって食べて学ぶ教室
- 保育園や学校で自然農法による野菜の栽培体験

東郷町の給食の特徴

➤ 特 徴

- ・ 保育園、学校ともにセンター方式を導入
- ・ 加工品は、化学調味料が無添加の物を中心に使用
- ・ 地元農産物を積極的に活用（ご飯は町産100%）

➤ 有機農産物等の使用

- ・ 令和元年度から保育園及び小中学校の給食にて使用開始
- ・ **令和5年度実績 8品目**
小松菜・・・1.2t、米・・・0.6t、人参・・・0.5t、胡瓜・・・0.5t
大根・・・0.5t、南瓜・・・0.4t、その他0.1t（ほうれん草、ピーマン）
- ・ **保育園・・・ 67/224回、小学校・・・ 37/189回、中学校・・・ 33/181回**

➤ 食数（令和6年4月）

- ・ **小中学校（小学校6校、中学校3校）**
約4,450食
- ・ **保育園（4園）**
約600食



地元産有機農産物の給食導入のメリット

➤ 農家のメリット

- ・ 年間を通して給食で使用するので、
安定した収入源となる。
- ・ 給食での交流会等を通じ、
子ども達の**笑顔**に触れ**生産意欲**
の**向上**につながる。
- ・ 給食を通して園児、児童生徒だけでなく、
その**保護者（消費者）**にも **PR**できる。



地元産有機農産物の給食導入のメリット

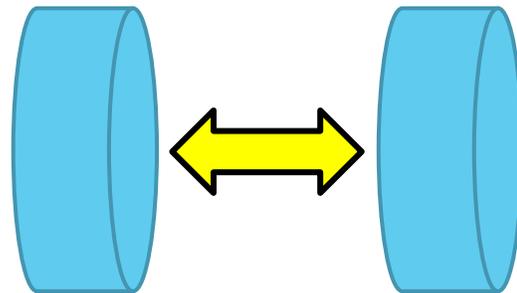
➤自治体のメリット

- ・ 特色ある給食を通して自治体のPRにつながる。
- ・ 有機農業の推進で農業分野での環境負荷の低減につながる。
- ・ 地産地消の推進につながる。
- ・ 農家の販路とすることで、新規就農者の確保につながる。



➤安全・安心な給食の実現

- ・ 地産地消の拡大
- ・ 有機農産物導入の拡大
(使用量及び品目の増加)
- ・ **子育て世代**にPR



車の両輪

➤有機農業振興

- ・ 町内有機農家の掘り起こし
- ・ 給食を新規就農者の販路に
(スタートアップ支援)
- ・ 特に**子育て世代**への理解促進

今後の展望など

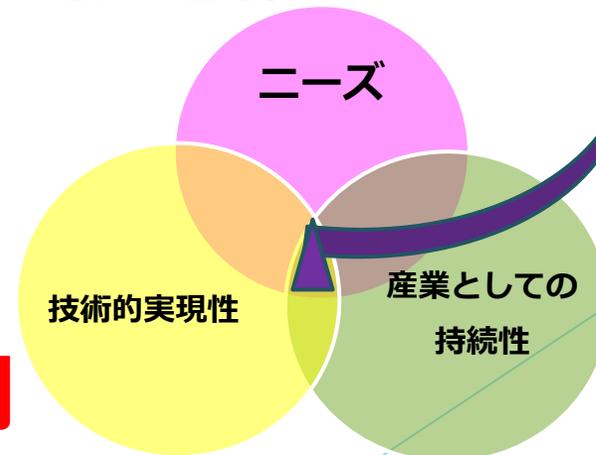
地域ぐるみで**有機農業**を推進するということは

- ・ **有機農業**を**核**とした『**人づくり**』と『**まちづくり**』
- ・ **D X**時代だからこそ『**新たな成功の方程式**』が必要

⇒ これからは『**デザイン思考**』で課題解決

- ・ 人間の感情に寄り添う
- ・ 五感を駆使して
- ・ 試行錯誤を繰り返す

『**令和の有機農業**』をみんなで**共創**



スマート農業だけでなく

多様な
イノベーションで